

青果物の輸出をめぐる情勢について



農林水産省

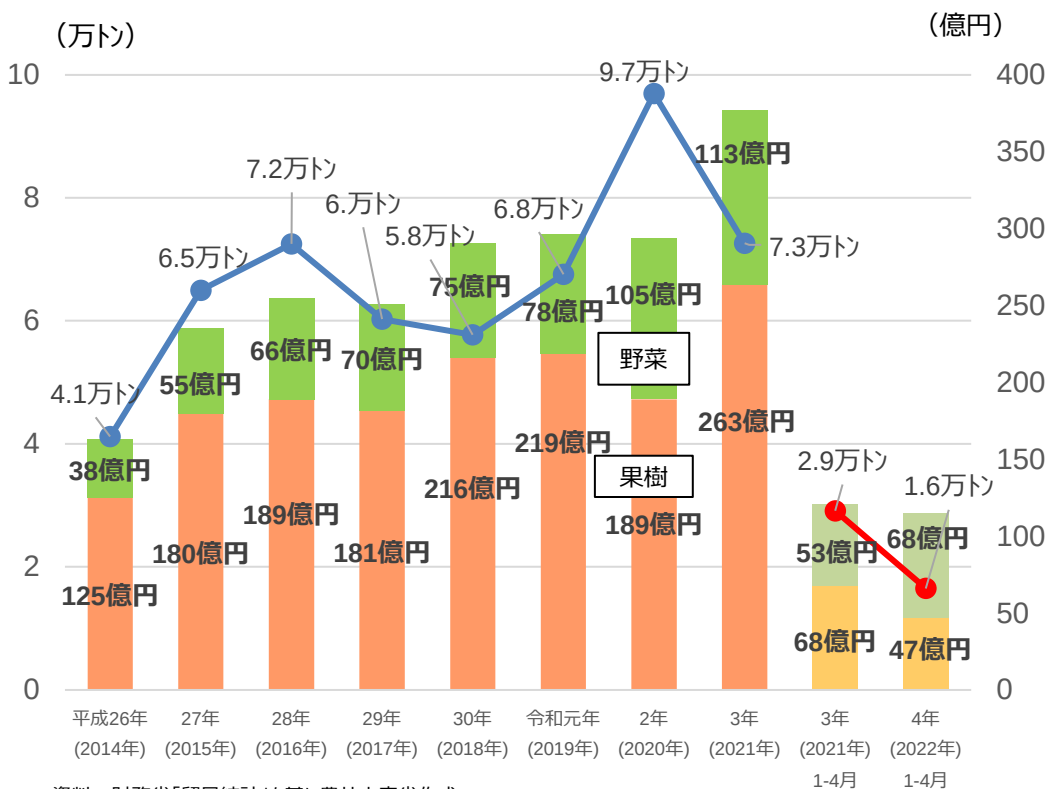


青果物の輸出状況	p. 2
政府の輸出促進政策と新たな輸出額目標	p.13
農林水産物・食品輸出促進団体（品目団体）認定制度.....	p.16
青果物の輸出拡大に向けた規制緩和にかかる取組.....	p.19

青果物の輸出の状況①

- 青果物の2021年の輸出実績は、数量ベースで7.3万トン（前年同期比25%減少）、金額ベースで377億円（前年同期比28%増加）と過去最高額を記録した。
- このうち、金額ベースでは、果実が70%、野菜が30%を占める。
- 2022年1-4月期については、主にりんごが大きく減少したこと等により、金額ベースで対前年同期比7%減の114.9億円となった。

○ 青果物の輸出推移



資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成
※2022年のデータから、青果物の数値は「かき」「かんしょ」それぞれの加工品を含む数値を算出。

○ 品目別輸出実績 2021年

主な品目	2021年				2020年産	輸出量の 占める割合 (%)
	輸出数量 (t)	輸出金額 (百万円)	対前年同期増減率 (％)		国内生産量 (t)	
			数量ベース	金額ベース		
青果物	72,620	37,658	▲ 25.1	28.3	－	－
りんご	37,729	16,212	40.1	51.5	763,300	4.9%
ぶどう	1,837	4,629	7.3	12.4	163,400	1.12%
もも	1,926	2,322	20.5	24.1	98,900	1.95%
なし	1,313	961	10.5	25.9	198,200	0.66%
かんきつ	1,856	1,101	49.4	60.3	1,059,498	0.18%
かき	645	440	▲ 11.6	▲ 0.1	193,200	0.33%
いちご	1,776	4,061	50.6	54.4	159,200	1.12%
ながいも	6,773	2,314	13.0	8.7	149,500	4.53%
かんしょ	5,603	2,333	6.4	13.1	687,600	0.81%
たまねぎ	6,938	397	▲ 84.9	▲ 74.6	1,357,000	0.51%

資料：農林水産省「果樹生産出荷統計」「特産果樹生産動態等調査」「野菜生産出荷統計」「作物統計」、
財務省「貿易統計」を基に作成

注1：なしは日本なしと西洋なしを足して算出。

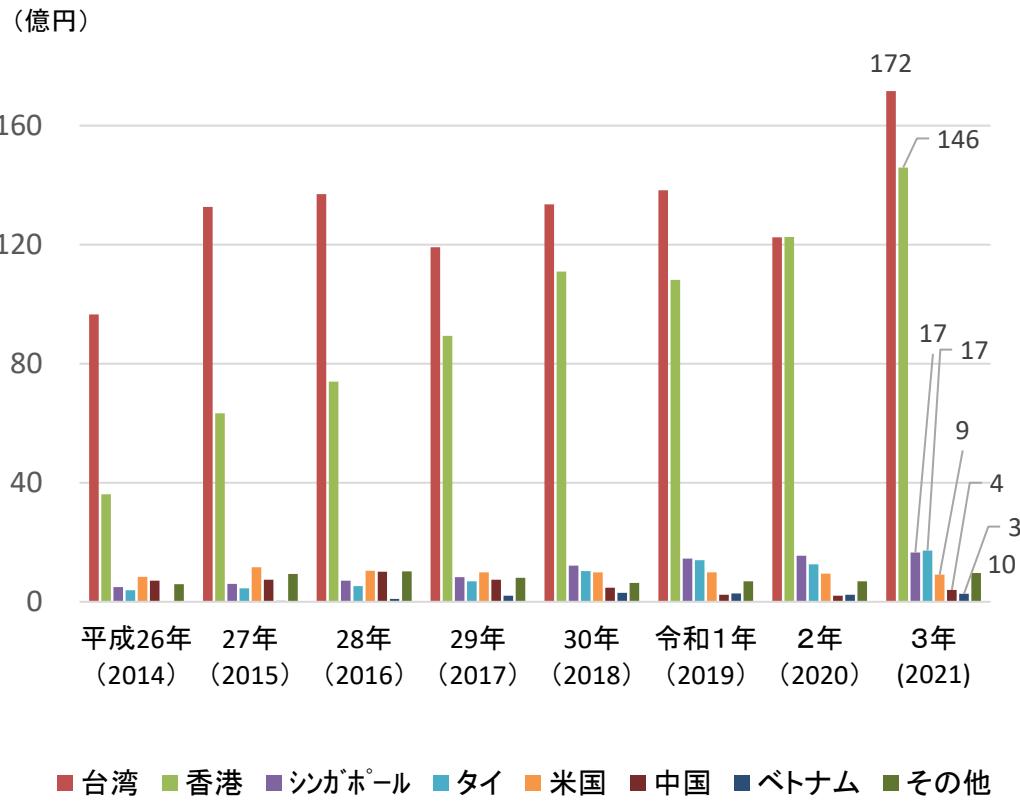
注2：かんきつは果樹生産出荷統計のみかん（R2）と特産果樹生産動態等調査のかんきつ類（R1）を足して算出。

注3：四捨五入の関係で内訳の計と合計が一致しないことがある。

青果物の輸出の状況②

○ 輸出先国・地域別では、金額ベースで台湾向けが172億円と最も多く、台湾、香港向けが全体の輸出金額の8割以上を占める。

○ 青果物の国・地域別輸出額推移



資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

○ 青果物の国・地域別内訳 2021年

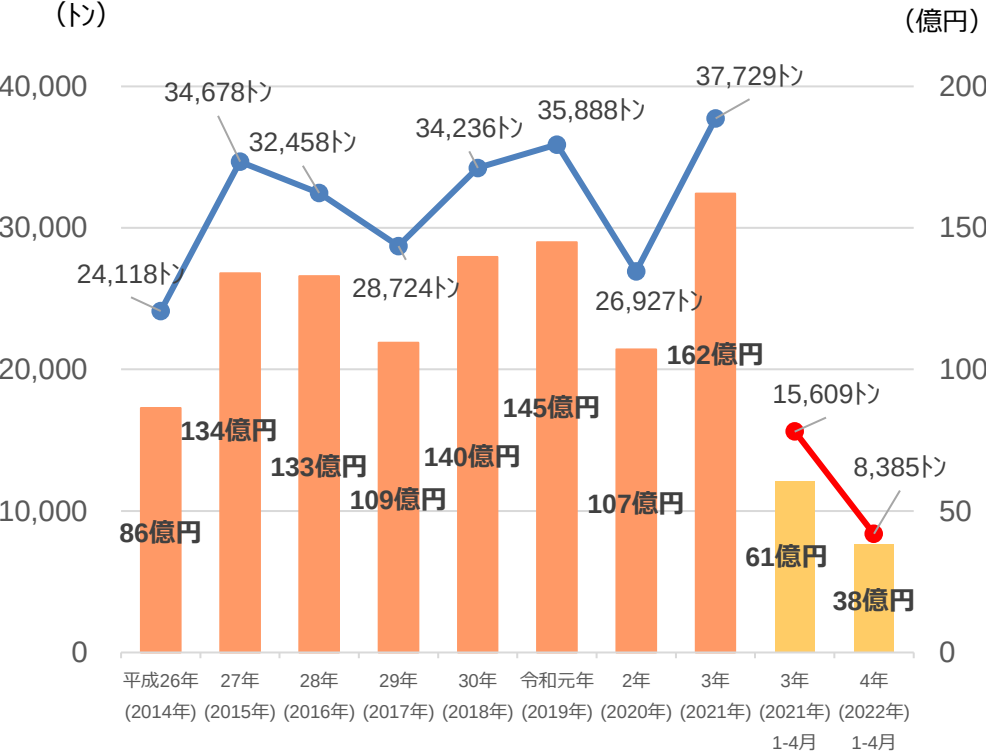
	国 名	輸出額（量）	輸出額 増減率	輸出額 構成比
1	台湾	171.6億円 (36,272トン)	40.2%	45.6%
2	香港	145.9億円 (21,468トン)	19.0%	38.7%
3	タイ	17.2億円 (3,157トン)	36.9%	4.6%
4	シンガポール	16.6億円 (3,331トン)	7.4%	4.4%
5	アメリカ合衆国	9.2億円 (2,252トン)	▲2.7%	2.4%
-	その他	16.2億円 (6,141トン)	45.2%	4.3%
-	世界	376.6億円 (72,620トン)	28.3%	100%

資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成
注：四捨五入の関係で内訳の計と合計が一致しないことがある。

りんごの輸出の状況

- **2021年の輸出実績**は、2021年の春節時期が例年より遅い時期（2月12日）で需要が2月上旬まで続いたこと、2022年の春節（2月1日）に向けてコンテナ船遅延を懸念し輸出を前倒しする動きが強かったこと等により、**前年比数量で40%増、金額で51%増と過去最高額の162億円**となった。
- **2022年1-4月期**は、今年の春節が昨年よりも10日ほど早かったことから、2月初めまで春節需要があった昨年に比べ、主に台湾向け輸出が減少したこと、昨年春先の凍霜害の影響で収穫量が減少したため、輸出が減少したこと等により、**前年同期比数量で46%減、金額で37%減の38.4億円**となった。

○ りんごの輸出推移



○ りんごの国・地域別内訳 2021年

	国 名	輸出額（量）	輸出額増減率	輸出額構成比
1	台湾	118.3億円 (27,194トン)	66.7%	72.9%
2	香港	35.0億円 (8,706トン)	21.0%	21.6%
3	タイ	4.0億円 (920トン)	30.8%	2.5%
4	ベトナム	2.4億円 (395トン)	21.5%	1.5%
5	シンガポール	1.4億円 (339トン)	8.1%	0.9%
-	その他	1.0億円 (174トン)	29.7%	0.6%
-	世界	162.1億円 (37,729トン)	51.5%	100.0%

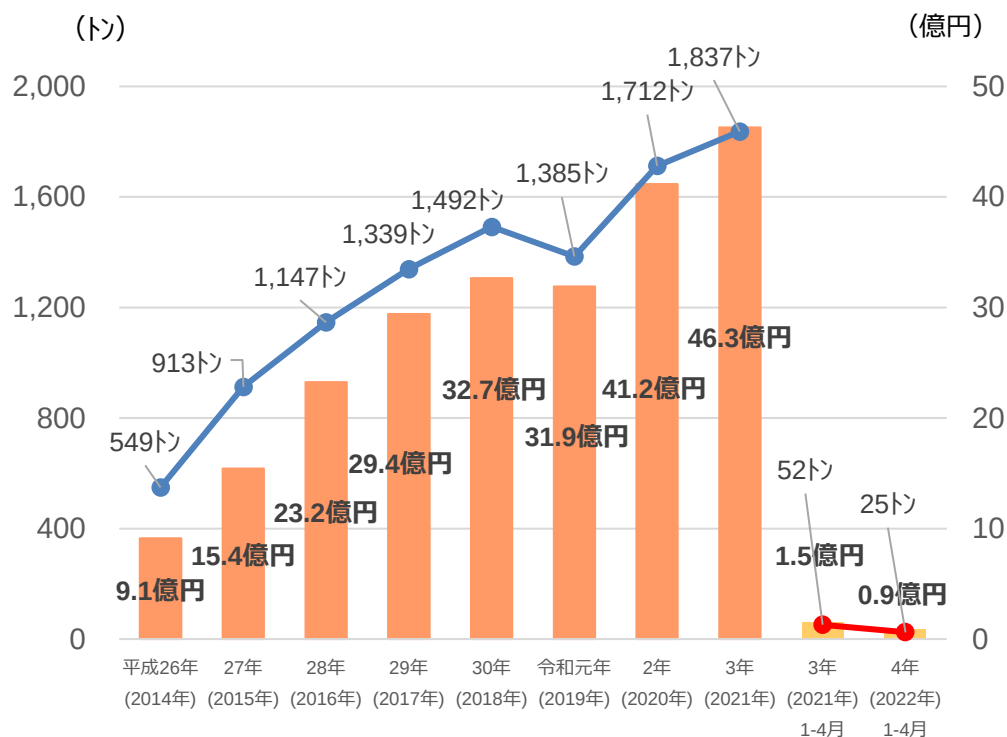
資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成
注：四捨五入の関係で内訳の計と合計が一致しないことがある。

ぶどうの輸出の状況

- **2021年の輸出実績**は、主力品種においては輸出向けの商品が天候に恵まれ良品質なものが潤沢であったこと等により、**前年比数量で7%増、金額で12%増と過去最高額の46.3億円**となった。
- 2022年 1 -4月期は、主な出荷時期ではない。
- 主な輸出先は台湾、香港で、全体の約 9 割を占める。

○ ぶどうの輸出推移



資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

○ ぶどうの国・地域別内訳 2021年

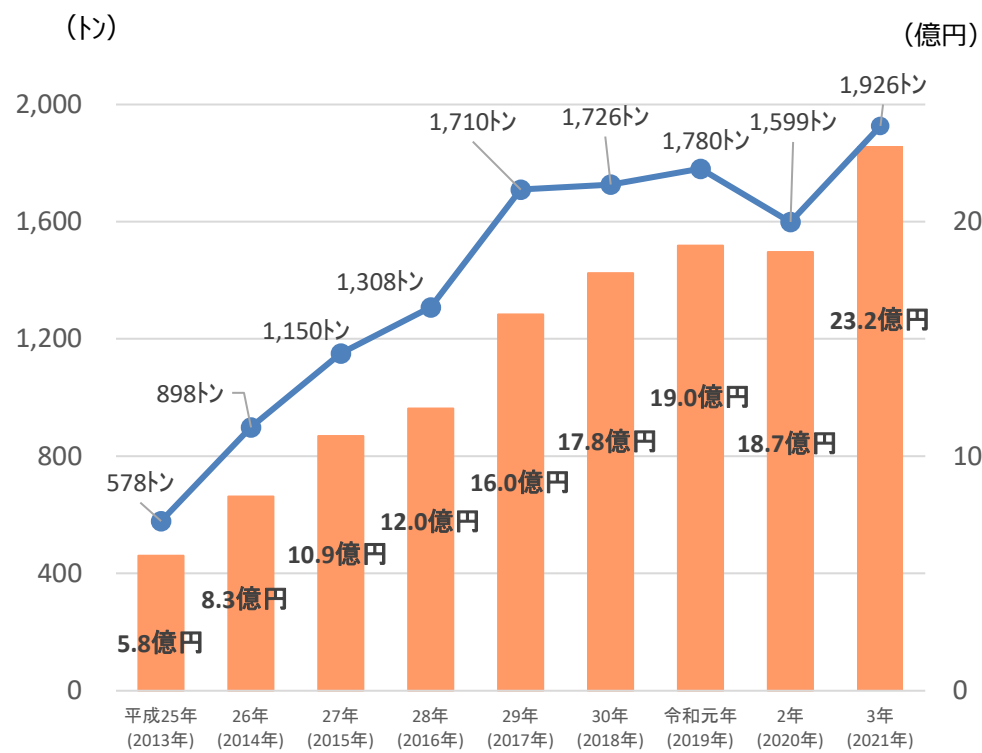
	国 名	輸出額 (量)	輸出額 増減率	輸出額 構成比
1	台湾	21.6億円 (896トン)	25.2%	46.7%
2	香港	21.1億円 (840トン)	0.8%	45.7%
3	シンガポール	1.6億円 (52トン)	1.7%	3.5%
4	タイ	1.0億円 (24トン)	30.8%	2.2%
5	マレーシア	0.5億円 (14トン)	59.7%	1.0%
-	その他	0.4億円 (11トン)	47.3%	1.0%
-	世界	46.3億円 (1,837トン)	12.4%	100.0%

資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成
注：四捨五入の関係で内訳の計と合計が一致しないことがある。

ももの輸出の状況

- **2021年の輸出実績**は、出荷始めの4月から8月まで良好な生育状況と香港等からの引き合いが続いたこと等により、**前年比数量で20%増、金額で24%増（4.5億円増）と過去最高額の23.2億円**となった。
- 2022年1-4月期は、主な出荷時期ではない。
- 主な輸出先は香港、台湾で、全体の9割以上を占める。

○ ももの輸出推移



○ ももの国・地域別内訳 2021年

	国 名	輸出額 (量)	輸出額 増減率	輸出額 構成比
1	香港	17.2億円 (1,461トン)	21.7%	74.1%
2	台湾	4.9億円 (388トン)	38.2%	21.0%
3	シンガポール	0.8億円 (46トン)	14.2%	3.2%
4	タイ	0.2億円 (11トン)	▲21.2%	0.8%
5	マレーシア	0.1億円 (14トン)	17.5%	0.6%
-	その他	0.1億円 (6トン)	140.2%	0.3%
-	世界	23.2億円 (1,926トン)	24.1%	100.0%

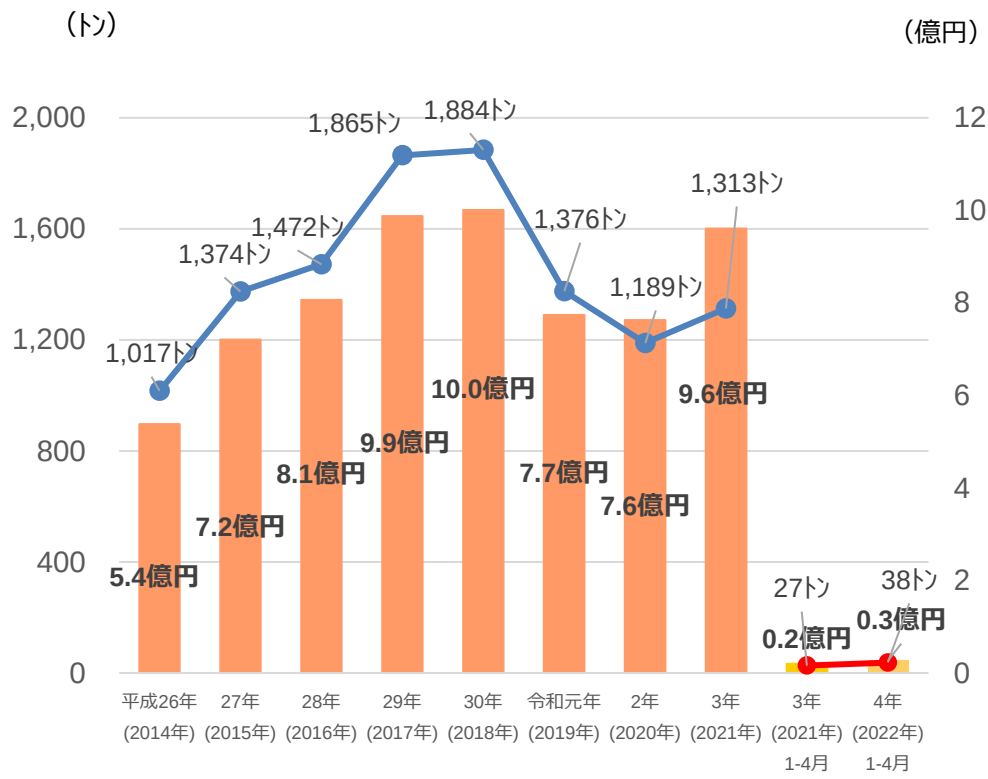
資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成
注：四捨五入の関係で内訳の計と合計が一致しないことがある。

なしの輸出の状況

- **2021年の輸出実績**は、8月において昨年より10日ほど早い中秋節（9月21日）に向けて香港からの引き合いが強かったこと等により、全体で**前年比数量で11%増、金額で26%増（2.0億円増）の9.6億円**となった。
- 2022年1-4月期は、主な出荷時期ではない。
- 主な輸出先は香港、台湾で、全体の約9割を占める。

○ なしの輸出推移



○ なしの国・地域別内訳 2021年

	国 名	輸出額（量）	輸出額増減率	輸出額構成比
1	香港	6.6億円(912トン)	26.4%	69.1%
2	台湾	2.0億円(242トン)	30.7%	20.5%
3	タイ	0.3億円(52トン)	94.2%	3.5%
4	ベトナム	0.2億円(31トン)	▲ 46.6%	1.9%
5	アメリカ	0.2億円(27トン)	11.3%	1.7%
-	その他	0.3億円(49トン)	55.1%	3.2%
-	世界	9.6億円(1,313トン)	25.9%	100.0%

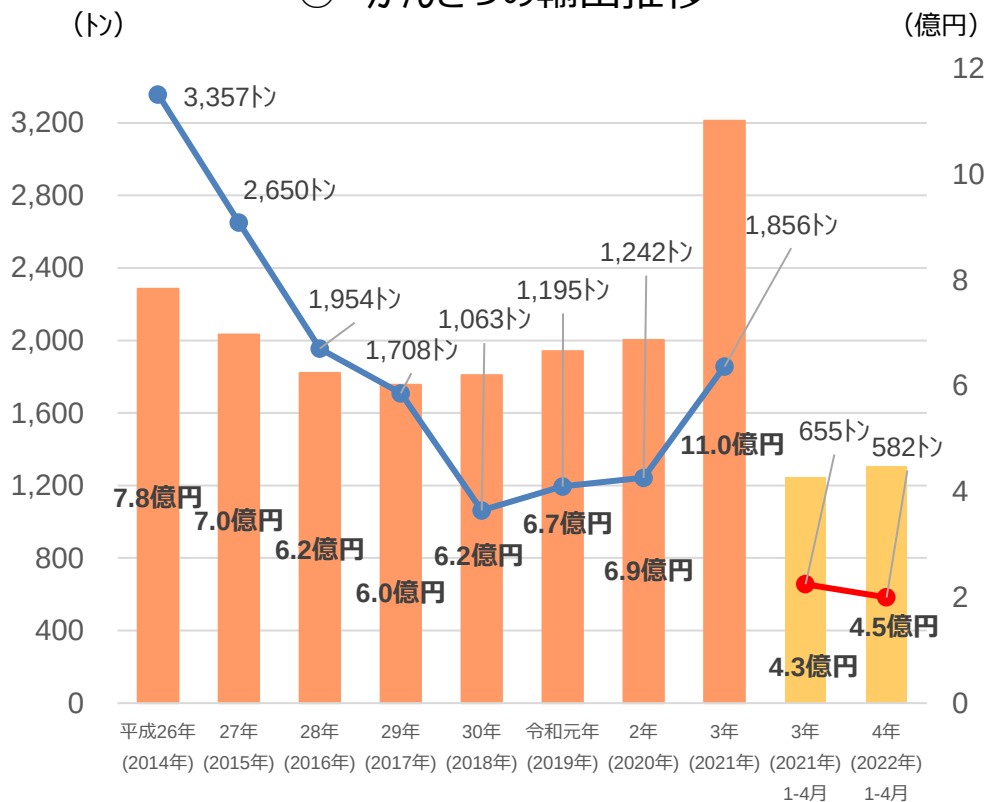
資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成
注：四捨五入の関係で内訳の計と合計が一致しないことがある。

かんきつの輸出の状況

- **2021年の輸出実績**は、2021年の春節時期が例年より遅い時期（2月12日）で需要が2月上旬まで続いたこと、2022年の春節（2月1日）に向けてコンテナ船遅延を懸念し輸出を前倒しする動きが強かったこと等により、**前年比数量で49%増、金額で60%増と過去最高額の11億円**となった。
- **2022年1-4月期**は、今年の春節が昨年よりも10日ほど早かったことから、2月初めまで春節需要があった昨年に比べ、主に台湾向けの輸出が減少したこと等により、**前年同期比数量で11%減、金額で5%増の4.5億円**となった。

○ かんきつの輸出推移



○ かんきつの国・地域別内訳 2021年

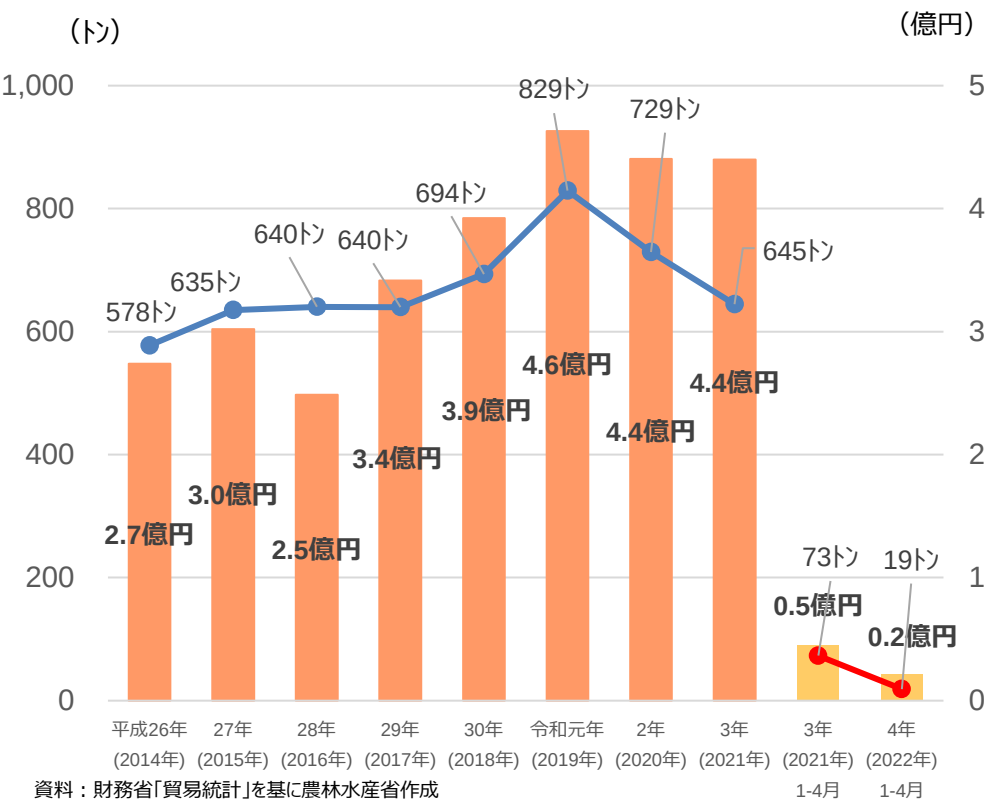
	国 名	輸出額（量）	輸出額増減率	輸出額構成比
1	香港	4.9億円(793トン)	49.5%	44.2%
2	台湾	4.0億円(574トン)	75.8%	36.0%
3	シンガポール	0.9億円(140トン)	60.4%	8.0%
4	カナダ	0.5億円(209トン)	121.3%	4.8%
5	マレーシア	0.4億円(75トン)	413.1%	3.2%
6	ニュージーランド	0.1億円(29トン)	41.2%	0.9%
7	カンボジア	0.1億円(5トン)	798.3%	0.9%
-	その他	0.2億円(31トン)	▲46.2%	2.1%
-	世界	11.0億円(1,856トン)	60.3%	100.0%

資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成
注1：かんきつにはうんしゅうみかん、中晩柑、香酸かんきつ等を含む。
注2：四捨五入の関係で内訳の計と合計が一致しないことがある。

かきの輸出の状況

- **2021年の輸出実績**は、春先の凍霜害や8～9月の曇雨天等の影響による生育不良が起こり、輸出向けの良品質なものが十分に確保できなかったこと等により、**前年比数量で12%減、金額で0.1%減の4.4億円**となった。
- **2022年1-4月期**は、昨年8～9月の曇雨天等の影響による生育不良で、貯蔵向けの棚持ちがよい良品質なものが不足したこと等により、**前年比数量で74%減、金額で52%減の0.2億円**となった。

○ かきの輸出推移



○ かきの国・地域別内訳 2021年

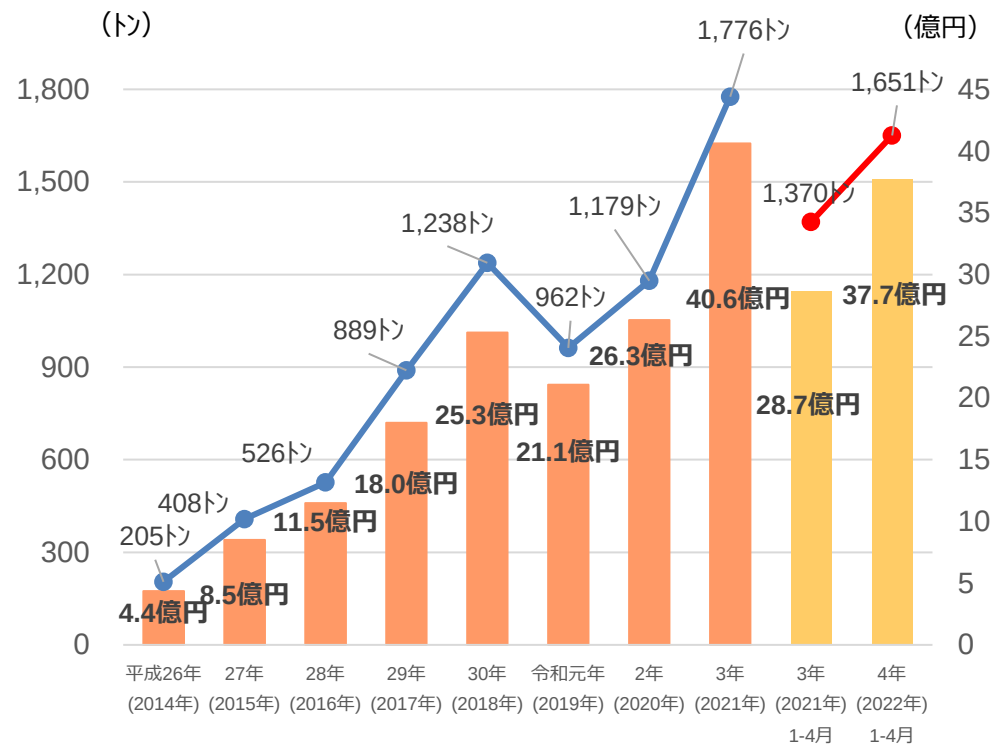
	国 名	輸出額（量）	輸出額 増減率	輸出額 構成比
1	香港	2.3億円(359トン)	▲3.5%	52.6%
2	タイ	1.6億円(217トン)	▲4.2%	35.5%
3	シンガポール	0.3億円(37トン)	30.3%	6.3%
4	台湾	0.1億円(15トン)	28.7%	2.4%
5	アメリカ	0.1億円(10トン)	121.3%	1.8%
-	その他	0.1億円(7トン)	30.4%	1.4%
-	世界	4.4億円(645トン)	▲0.1%	100.0%

資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成
注：四捨五入の関係で内訳の計と合計が一致しないことがある。

いちごの輸出の状況

- **2021年の輸出実績**は、2021年の春節時期が例年より遅い時期（2月12日）で、需要が2月上旬まで続いたこと、春節以降も香港等の巣ごもり需要からの引き合いが続いたこと等により、**前年比数量で51%増、金額で54%増と過去最高額の40.6億円**となった。
- **2022年1-4月期**は、2022年の春節（2月1日）需要が1月末まで続いたこと、巣ごもり需要として、日本産いちごが人気となり、香港や台湾を中心に輸出が増加したこと等により、**前年比数量で21%増、金額で32%増の37.7億円**となった。

○ いちごの輸出推移



○ いちごの国・地域別内訳 2021年

	国 名	輸出額（量）	輸出額増減率	輸出額構成比
1	香港	29.4億円 (1,343トン)	46.6%	72.4%
2	台湾	5.4億円 (236トン)	158.7%	13.4%
3	シンガポール	2.2億円 (95トン)	19.7%	5.5%
4	タイ	2.1億円 (57トン)	34.5%	5.2%
5	マレーシア	0.7億円 (23トン)	1049.1%	1.6%
-	その他	0.8億円 (23トン)	19.7%	1.9%
-	世界	40.6億円 (1,776トン)	54.4%	100.0%

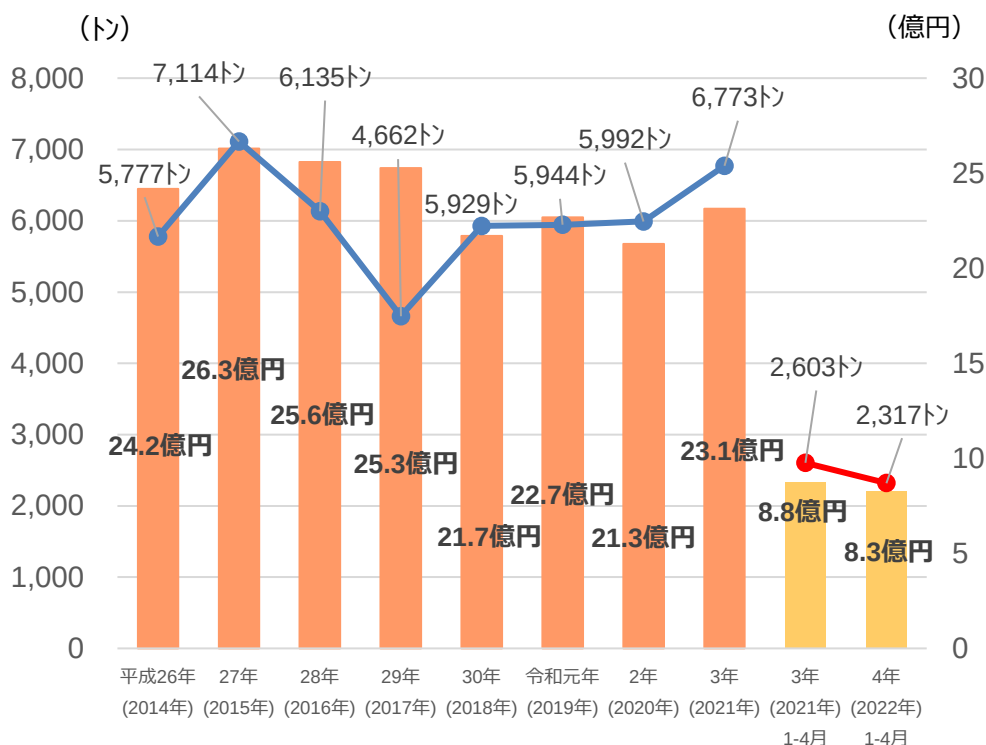
資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成
注：四捨五入の関係で内訳の計と合計が一致しないことがある。

ながいもの輸出の状況

- **2021年の輸出実績**は、北海道の2020年産ながいもの生育状況が良好で、輸出向けの太物で良品質なものが潤沢であったこと、台湾等からの引き合いが強かったこと等により、**前年比数量で13%増、金額で9%増（1.8億円増）の23.1億円**となった。
- **2022年1-4月期**は、コンテナ船の着便遅延の影響により米国向け輸出が減少したこと等により、**前年同期比数量で11%減、金額で6%減の8.3億円**となった。

○ ながいもの輸出推移



資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

○ ながいもの国・地域別内訳 2021年

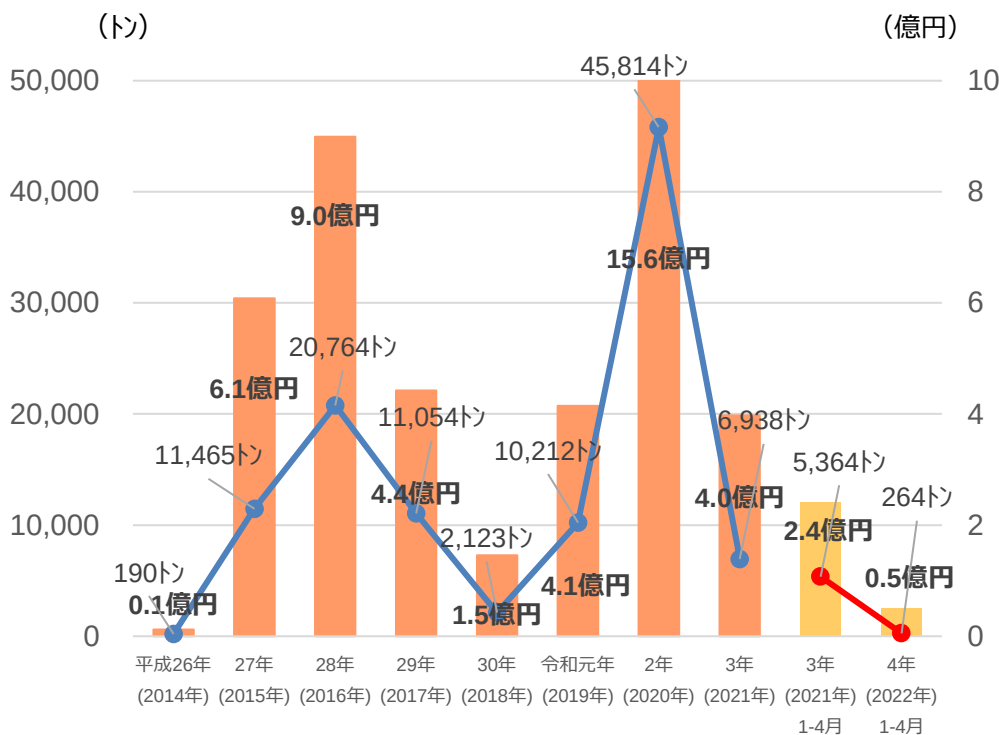
	国 名	輸出額 (量)	輸出額 増減率	輸出額 構成比
1	台湾	11.4億円 (3,481トン)	21.7%	49.1%
2	アメリカ	7.6億円 (2,146トン)	▲ 6.7%	32.8%
3	シンガポール	2.4億円 (703トン)	▲ 6.5%	10.2%
4	香港	1.3億円 (325トン)	42.6%	5.5%
5	カナダ	0.4億円 (95トン)	60.7%	1.9%
-	その他	0.1億円 (24トン)	▲ 4.6%	0.5%
-	世界	23.1億円 (6,773トン)	8.7%	100.0%

資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成
注：四捨五入の関係で内訳の計と合計が一致しないことがある。

たまねぎの輸出の状況

- **2021年の輸出実績**は、2019年北海道産たまねぎと2020年産春たまねぎがいずれも豊作で輸出が多かった2020年に対し、主要産地である北海道の高温干ばつによる生育不良で出荷量が例年より少ないこと等により、**前年比数量85%減、金額は75%減（11.7億円減）の3.9億円**となった。
- **2022年1-4月期**は、主要産地である北海道の2021年産たまねぎが高温干ばつによる生育不良で出荷量が例年より少ないこと等により、**前年同期比数量で95%減、金額で79%減の0.5億円**となった。

○ たまねぎの輸出推移



○ たまねぎの国・地域別内訳 2021年

	国 名	輸出額（量）	輸出額増減率	輸出額構成比
1	韓国	1.4億円 (3,186トン)	▲ 19.9%	36.2%
2	台湾	1.2億円 (2,607トン)	▲ 90.3%	30.6%
3	香港	1.0億円 (694トン)	19.0%	24.4%
4	シンガポール	0.2億円 (276トン)	▲ 12.2%	6.2%
5	ロシア	0.1億円 (98トン)	▲ 64.2%	1.4%
-	その他	0.0億円 (77トン)	16.8%	1.2%
-	世界	4.0億円 (6,938トン)	▲ 74.6%	100.0%

資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成
注：四捨五入の関係で内訳の計と合計が一致しないことがある。

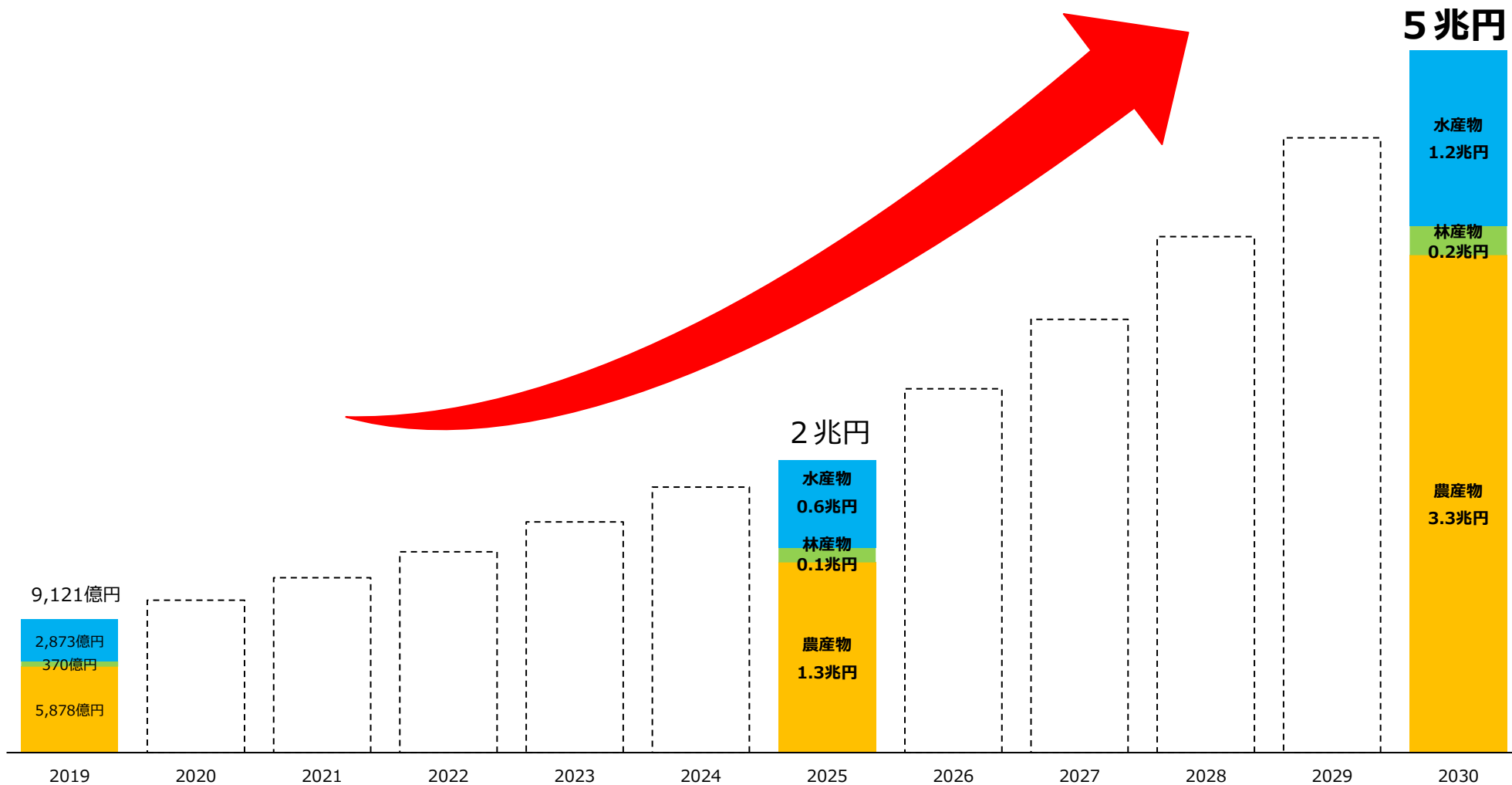
政府の輸出促進政策



- 2019年11月、輸出先国による食品安全規制等に対応するため、輸出先国との協議等について、政府一体となって取り組むための体制整備等を内容とする、「**農林水産物及び食品の輸出の促進に関する法律**」が成立（令和2年4月1日施行）。
- 食料・農業・農村基本計画（令和2年3月31日閣議決定）において、**2030年までに農林水産物・食品の輸出額を5兆円とする**目標を設定。
- 経済財政運営と改革の基本方針2020・成長戦略フォローアップ（令和2年7月17日閣議決定）において、中間目標として、**2025年までに農林水産物・食品の輸出額を2兆円とする**目標を設定。
- 2020年12月、総理大臣を本部長とする「**農林水産業・地域の活力創造本部**」において2025年、2030年目標の達成に向けた戦略である「**農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略**」を決定。
- 2021年12月、総理大臣を本部長とする「**農林水産業・地域の活力創造本部**」において「**農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略**」を改訂し、輸出促進法等の改正など施策の方向を決定。
- 2022年3月に**改正輸出促進法案**を国会へ提出し、2022年5月に可決・成立。さらなる今後の取組について方向性を定める「**農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略**」の改訂。

新たな農林水産物・食品の輸出額目標

農林水産物・食品の輸出額を、2025年までに2兆円、2030年までに5兆円とすることを目指す。



※少額貨物（1ロット20万円以下）を新たに輸出額のカウントに追加

青果物の輸出強化戦略

- 農林水産物・食品の更なる輸出拡大に向けて、「食料・農業・農村基本計画」（令和2年3月31日閣議決定）において、**2025年までに2兆円、2030年までに5兆円とする輸出額目標を設定。**
- 2021年に輸出額1兆円を達成**したところであり、引き続き「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」（2022年5月改訂）に基づき、目標達成に向け、政府一体となってあらゆる施策を講じることとしている。
- 青果物では、**りんご、ぶどう、もも、かんきつ、かき・かき加工品、いちご、その他野菜を輸出重点品目**と選定するほか、**輸出に取り組む産地をリスト化し、輸出産地の形成に必要な施設整備等を重点的に支援。**
- さらに、青果物の生産から販売に至る関係事業者を構成員とする「日本青果物輸出促進協議会」をオールジャパンでの輸出拡大の中心的な役割を担う「品目団体」として位置付け。

【輸出産地のリスト化（令和4年5月時点）】

■ 青果物の重点品目の輸出に取り組む輸出産地

- りんご（8産地（18事業主体））
- ぶどう（6産地（15事業主体））
- もも（6産地（12事業主体））
- かんきつ（15産地（19事業主体））
- かき・かき加工品（10産地（11事業主体））
- いちご（13産地（18事業主体））
- その他野菜（38産地（48事業主体））

【輸出の取組に向けた支援】

＜ソフト的支援＞

- グローバル産地づくり推進事業
 - ・ 輸出事業計画の策定・実行等の輸出産地の形成支援
- 青果物輸出産地体制強化加速化事業
 - ・ 輸出先国の規制等に対応した生産・流通体制強化等の支援
- インポートトレランス申請支援事業
 - ・ 輸出先国・地域での残留農薬基準値設定の申請支援

＜施設等整備支援＞

- 農産物等輸出拡大施設整備事業
 - ・ 国産農産物等の輸出拡大に必要な集出荷貯蔵施設等の整備支援

【果実等の品目団体と取組】

■ 日本青果物輸出促進協議会（2015年5月設立）

※ J A、県輸出協議会、卸売会社、輸出業者等の68団体により構成（R4.6.29現在）



- 輸出先国が求めるスペックの安定供給に向けた産地連携体制の形成
- JETRO、JFOODOとの連携によるマーケティング、プロモーション活動
- 国内産地と、輸出先国の実需者等を繋ぐ輸出事業者等との連携
- 統一マークの活用等によるジャパンプランド形成、認知・浸透に向けた活動

【輸出先国等の規制への対応】

○ 残留農薬基準への対応

- インポートトレランス申請支援事業による支援件数
→ 75件（平成27年度以降）
（台湾:67件、米国：7件、カナダ：1件）

○ 輸出解禁等に向けた植物検疫協議 ※直近の動向

- インド向けりんごの輸出解禁（2022年3月）
- ベトナム向けうんしゅうみかんの輸出解禁（2021年10月）
- 米国向けメロンの輸出解禁（2021年11月）

農林水産物・食品輸出促進団体（品目団体）認定制度



- 輸出品目ごとに、生産から販売に至る関係者が連携し、輸出の促進を図る法人を、法人からの申請に基づき、国が「認定農林水産物・食品輸出促進団体」（認定輸出促進団体）として認定する制度を創設。
- 認定輸出促進団体は、輸出先国でのニーズ調査等の調査研究や商談会参加等の需要開拓、輸出事業者に対する情報提供を行うほか、必要に応じて輸出促進のための規格の策定や任意のチェックオフの業務を行う。

農林水産物・食品輸出促進団体

農林水産物又は食品の輸出の促進を図ることを目的として農林水産物又は食品の輸出のための取組を行う者が組織する団体

輸出促進業務

【必須業務】

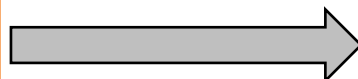
- ① 輸出先国の市場・輸入条件等の調査研究
- ② 商談会への参加、広報宣伝等による需要開拓
- ③ 輸出に関する事業者への情報提供及び助言

【任意業務】

- ① 品質・包装等の輸出促進に必要な規格の策定
- ② 会員等の同意を得て、生産量等に応じた拠出金を収受し、輸出促進のための環境整備に充てる仕組みの構築・運用（任意のチェックオフ）

認定申請

法人であることが必要



【必要書類】

1 申請書

- ① 対象品目
- ② 団体の構成員 等

2 業務規程 等

認定・支援



主務大臣

農林水産大臣・財務大臣（酒類のみ）

- ① 基本方針に照らし適切
- ② 法令に違反しない
- ③ 輸出拡大に資する等の基準に適合
- ④ 知識・能力・経理的基礎がある
- ⑤ 省令で定める要件に適合

① 中小企業信用保険法の特例

一定の要件を満たす一般社団法人・一般財団法人を、中小企業信用保険法の中小企業者とみなし、同法の保証保険の対象とする。

② 食流機構による債務保証

食品等流通合理化促進機構は、認定団体の業務に必要な資金の借入に係る債務保証を行うことができる。

③ FAMICによる協力

（独）農林水産消費安全技術センター（FAMIC）は、認定団体の依頼に応じ、専門家の派遣その他規格の策定に関し必要な協力を行うことができる。

④ JETROの援助

（独）日本貿易振興機構（JETRO）は、認定団体の依頼に応じ、輸出促進業務の実施に必要な助言その他の援助を行う（努力義務）。

認定農林水産物・食品輸出促進団体（品目団体）の取組概要

個々の産地・事業者では取り組む負担が大きい、非競争分野の輸出促進活動（市場調査、ジャパンブランドによる共同プロモーション）を品目団体が行い、産地や事業者の輸出拡大の取組を下支え。

【産地・事業者の課題例】



各国で規制内容が異なる上に変わるので、**個社で最新情報を把握し続けることは困難。**



個社でPRを行うには限界があるため、**事業者が集まって現地で効率良く各社がPRを行う機会が欲しい。**



海外では日本の地方の名称は知られておらず、**日本産であることをブランド化した方が良い。**



輸送時のカビ発生等による**ロスが業界共通の問題。抑制に向けた技術開発が必要。**



ロット確保が出来ず逃している販売機会がある。産地間調整の機会が必要



様々な**課題が次々と出てきて、それぞれに必要な対応が自社では不明なことが多い。具体的な対応策の情報を得る場があるとありがたい。**

品目団体へ集約

品目団体

生産者や事業者が直面する課題の解決に向け、オールジャパンで取り組むべき活動を実施。

【必須業務】

- 輸出先国の市場・輸入条件（規制）等の**調査・研究**
- 商談会への参加、広報宣伝等による**需要開拓**
（例）見本市へオールジャパンで出展、バイヤー向け商談会・セミナー開催、ジャパンブランド広報の実施
- 輸出に関する**事業者への情報提供・助言**
（例）輸出専門家による相談窓口を設置

【任意業務】

- 輸出促進に必要な包材・品質等の**規格の策定**
- 輸出のための取組みを行う事業者から拠出金を収受し、輸出促進の環境整備に充てる仕組みづくり（**任意のチェックオフ**）



バイヤーとの商談



店頭プロモーション



輸送規格を作成し荷潰れを防止

認定農林水産物・食品輸出促進団体（品目団体）の体制イメージ

- 品目の生産から販売までの関係者が連携し、オールジャパンで輸出拡大活動に取り組む。関係者は団体に加入することで、団体から情報提供を受けたり、団体が実施する販促活動に参加するなどのメリットを享受。
- 国、JETRO等が団体の取組を支援。

<認定団体の体制イメージ>

認定農林水産物・食品輸出促進団体（品目団体）

事務局

品目の関係者の意見を集約しオールジャパンとしての活動を企画・運営

- ・共通課題、情報の集約
- ・会費等により活動経費を拠出

業界全体の輸出力強化に
つながる活動を企画・展開

構成員※

生産、流通、販売まで幅広い輸出関係者が連携

生産・製造分野

- ・生産者、JA
- ・産地協議会
- ・食品メーカー等

流通分野

- ・卸売業者
- ・運送業者 等

販売分野

- ・輸出商社 等

この他にも必要に応じ、自治体や関係団体等、幅広い関係者と連携し活動を展開

政府

- ・法律による認定
- ・活動支援

JETRO FAMIC

助言・援助・協力

※構成員・・・直接の会員に加え、会員になっている団体の会員（孫会員）を含むことも団体の判断により可能。

青果物の輸出拡大に向けた規制緩和にかかる取組

青果物を輸出するためには、植物検疫条件や残留農薬基準などの輸出先国・地域の規制を踏まえ、取り組む必要。このため、

- ・ 植物検疫上日本産青果物の輸入を認めていない国・地域への輸出解禁の要請や条件付き輸入を認めている国・地域への輸入条件緩和の要請と検疫交渉
- ・ 青果物の残留農薬について、インポートトレランス申請の支援
- ・ その他の輸出上の制約となる規制の緩和に向けた相手国・地域への要請及び交渉を行って円滑な輸出に取り組める環境づくりを支援している。

検疫解禁等の要請

○最近解禁が行われた事案及び植物検疫条件

【りんご】インド（2022年3月）

- ・登録生産園地での栽培 ・登録選果こん包施設での選果こん包
- ・消毒処理の実施 ・インド側検査官による査察 ・輸出検査の実施

【うんしゅうみかん】ベトナム（2021年10月）

- ・登録生産園地での栽培 ・登録生産園地でのミカンバエ無発生確認
- ・ベトナム側植物検疫当局による登録生産園地の確認
- ・登録選果こん包施設での選果こん包 ・植物防疫所による輸出検査

【メロン】米国（2021年11月）

- ・輸出検査でスイカ緑斑モザイクウイルスの付着がないことを確認

○最近条件緩和が行われた事案（例）

【なし】米国

全ての都道府県(※)のなしが解禁・品種制限の撤廃。（2020年4月）
(※)沖縄県及び一部の離島を除く。

（参考）二国間協議により検疫条件が定められている品目
植物防疫所HP

<http://www.maff.go.jp/pps/j/search/bilateral.html>

インポートトレランス申請

申請に必要なデータ作成支援

平成27年度補正予算	26件（台湾25件、カナダ1件）
28年度補正予算	18件（台湾16件、米国2件）
30年度予算	12件（台湾10件、米国2件）
令和元年度予算	12件（台湾9件、米国3件）
令和2年度予算	9件（台湾8件、米国1件）
令和3年度(R2補正含む)	13件（台湾10件、米国3件）

＜品目別の支援件数＞

品目	支援件数	品目	支援件数
りんご	6	かき	9
ぶどう	12	いちご	13
もも	5	その他	23
かんきつ	7	合計	75

（参考）諸外国における残留農薬基準値に関する情報

https://www.maff.go.jp/j/shokusan/export/zannou_kisei.html